

東急住宅リース管理物件テナントレポート〈Vol.2〉



2018年5月

Tokyu Housing Lease Corporation

【目次】

- 1.テナント契約指数
- 2.テナント解約指数
- 3.テナント移動指数
- 4.平均空室日数

【分析結果】

過去3年間でテナント契約指数は安定的に推移し、テナント解約指数は減少しているため、テナント移動指数が減少しました。また、平均空室日数は短縮傾向にあり、賃貸不動産市場は活況であることが窺えます。

【算出条件等】

対象エリア	: 首都圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）
対象物件	: マンション
対象期間	: 2015年4月～2018年3月
算出方法	: 指数 ⇒ 対象期間の管理件数を母数とした割合を算出 平均空室日数 ⇒ 前回解約日から契約期間開始日までの日数

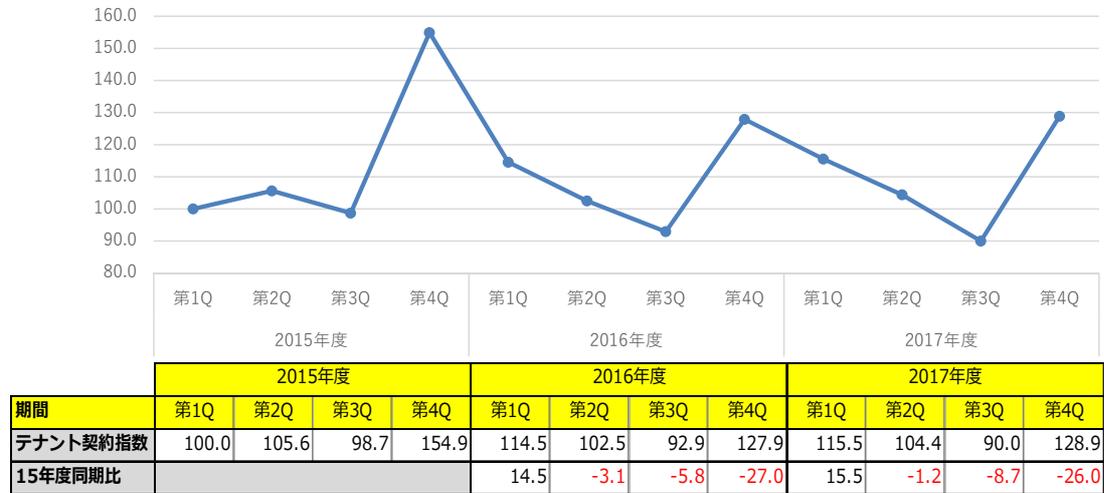
※弊社管理物件における独自データを基に算出した指標であり、すべての物件においてこの算出結果と同様の傾向となることを示したものではありません。

1.テナント契約指数

テナント契約指数とは、2015年度第1四半期を100とした、管理物件における契約割合を基に算出した指数です。この指数は、対象期間の管理ストック数のうち、新規の契約締結で当社管理物件に引越してきた割合をあらわす指標です。指数が大きくなると契約割合が高く新規入居割合が高く、小さいと新規入居割合が低いことを表しています。

2015年度第1Q : 100

テナント契約指数



2015年度第1四半期（第1Q）を100としたテナント契約指数について

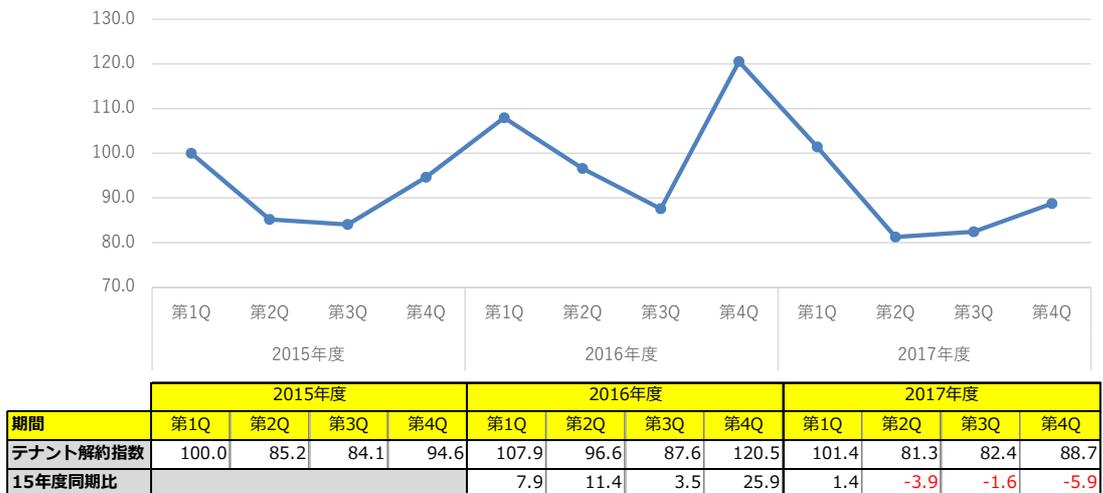
2016年度以降、テナント契約指数に大きな変動は見られず、安定的に推移している。

2.テナント解約指数

テナント解約指数とは、2015年度第1四半期を100とした、管理物件における解約割合を基に算出した指数です。この指数は、対象期間の管理ストック数のうち、賃貸借契約解約に伴う当社管理物件の退去割合をあらわす指標です。指数が大きくなると解約割合が高く、小さいと解約割合が低いことを表しています。

2015年度第1Q : 100

テナント解約指数



2015年度第1四半期（第1Q）を100としたテナント解約指数について

2017年度は2016年度と比較して指数が減少しており、低い値で推移している。

3.テナント移動指数

テナント移動指数とは、2015年度第1四半期を100とした、管理物件における入退去割合を基に算出した指数です。指数が大きくなると入退去の割合が高まっており、小さいと入退去の割合が低いことを表しています。

2015年度第1Q : 100

テナント移動指数



期間	2015年度				2016年度				2017年度			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
テナント移動指数	100.0	95.1	91.2	123.9	111.1	99.5	90.2	124.1	108.3	92.5	86.1	108.2
15年度同期比					11.1	4.3	-1.0	0.2	8.3	-2.6	-5.1	-15.7

2015年度第1四半期（第1Q）を100としたテナント移動指数について

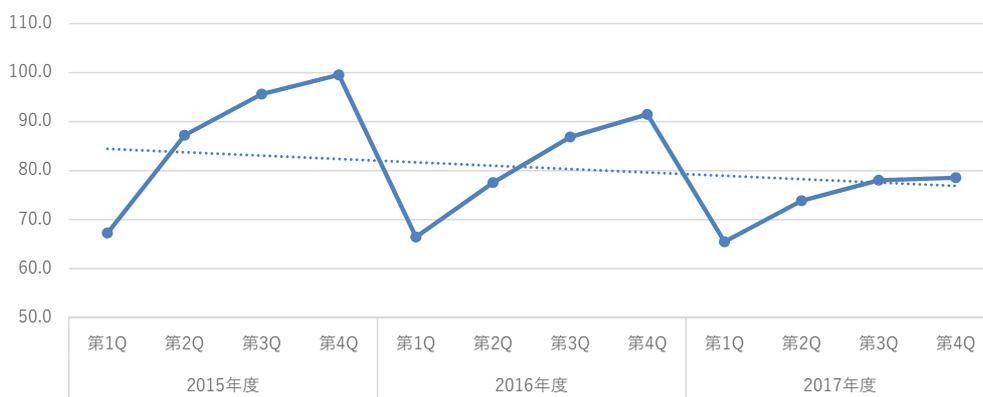
2017年度のテナント契約指数は例年通り推移し、テナント解約指数は減少しているため、2017年度のテナント移動指数は低く推移しており、繁閑の差が縮小した。

4. 平均空室日数

平均空室日数とは、2015年度第1四半期以降の四半期ごとの契約物件の空室日数の平均を算出したものです。算出方法としては、前回解約日（契約終了日）から契約期間開始日までの空室日数を算出しています。

単位：日

平均空室日数



期間	2015年度				2016年度				2017年度			
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
平均空室日数	67.2	87.2	95.6	99.5	66.4	77.5	86.9	91.5	65.5	73.8	78.0	78.6
15年度同期比					-0.8	-9.7	-8.8	-8.1	-1.8	-13.4	-17.6	-21.0

2015年度第1四半期（第1Q）以降の平均空室日数について

2015年度から2017年度にかけて、収益が発生しない期間である平均空室日数が短縮傾向にあり、大幅な改善が見られる。